

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 観光協会 / 住民団体
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 補助金 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1 棟単体型 複数棟集合型 団地型 建物状況 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真 1. 外観写真

妻籠宿を中心に在郷の集落を含めた地域、ほぼ江戸時代の妻籠村地域の全戸網羅の住民組織。昭和43年9月に妻籠宿の保存運動を始める時、技術者（学者）と行政と地域住民が三位一体でスクラムを組んで事業を推進するために発足された。公益財団法人として妻籠の町並みを守るために家や土地を、「売らない・貸さない・こわさない」という3原則をつくり、妻籠宿は日本初の重要伝統的建造物保存地区に指定されている。

■施設概要

事務局所在地：長野県木曾郡南木曾町吾妻 2159-2

運営開始：1968年9月設立

事業内容：1247.4haをエリア範囲とした重伝建妻籠宿の保存・景観保全、公報妻籠宿・各種事業報告の発行
 インタビューでお話を伺った方：藤原義則氏（理事長）

訪問者：荻原雅史，森野耕司

（こちらの記録をベースに、以下にまとめる）



写真 2. 敷地周辺 googlemap より

1. 運営概要

1) 妻籠宿について

妻籠宿は中山道42番目の宿場であり、長野県木曾郡南木曾町にある。中山道と飯田街道の追分に位置し交通の要衝であった。江戸時代に中山道沿いに宿場を作る時に宿寄席をやった場所であり、周りから人が寄せ集まり宿場になった場所である。

2) 設立の経緯

1968年（昭和43年）9月20日に妻籠を愛する会の設立総会が開催され、妻籠住民の総意として住民憲章を制定し、保存をすべてに優先するために、妻籠宿と旧中山道沿いの建物・屋敷・農耕地・山林等について「売らない」「貸さない」の三原則を定めた。その後、東京大学の太田博太郎教授、太田氏を中心とした学生・学者のグ

JR南木曾駅から車・バスで15分程度の場所に設立している。



写真 3. 妻籠宿の町並み

中山道の町並み、風景が広がっている。

参考文献

- 1) 妻籠観光協会 HP <http://tumago.jp/index.html>
- 2) 公益財団法人 妻籠を愛する会 <http://tumagowoaisurukai.jp/>



写真 4. 重要伝統的建造物保存地区についての看板

重要伝統的建造物保存地区の詳細事項が記載してある。



写真 5. 妻籠を愛する会施設内部

妻籠に関する情報、歴史を展示している。

ループ、南木曾町行政と一緒に保存運動が継続的に進められた。1973年（昭和48年）南木曾町独自に妻籠宿保存条例を制定し「宿場景観」、「在郷景観」、「自然景観」の3つの観点から保存の制度づくりをおこなった。1975年（昭和50年）の文化庁による「重要伝統的建造物群保存地区」制度の制定をきっかけに条例を改正、保存計画を策定し全国で最初の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。その後、一部活動に重複する部分がある妻籠地区保存財団と、資金的に自治体から独立しなければならないという理由もあり合併し、1983年（昭和58年）財団法人 妻籠宿保存財団が設立され、1990年（平成2年）財団法人妻籠を愛する会に名称変更、2012年（平成24年）に現在の形の公益財団法人妻籠を愛する会（以下、会と記載）になった。

3) 事業内容について

会の組織としては図1のような組織構成となっており、住民以外の選任もある住民評議会があり、監事会、事務局と理事会、その下に総務委員会、統制委員会、文化広報委員会、環境保全委員会、特別委員会がある。会には若い人やUターンの方も参加しており、知識や経験の継承を行っている。街並みの保存事業は長野県明治100周年事業（1968年～1970年）で本格化し今日に至っている。このような保存事業は先行例があるわけではなかった為、どのように活動すべきか自らが考え進められていった。

また1977年（昭和52年）から妻籠冬季大学講座を開始し冬の手の空いている時期に著名な方々を招いての勉強会もおこなっている（2021年3月時点で43回開催）。2020年はコロナで開催ができなかったが2019年には東京大学で妻籠に関する博士論文を書かれた石山千代氏が講演をされた。

1972年（昭和47年）に会の会報「妻籠」を創刊し、住民の方々への広報を現在まで続けている（原則年4回発行し、2021年3月時点で137号まで発行）（図2）。内容としてその時の活動状況や宿場の暦、統制委員会審議事項等が紙面に盛り込まれている。

2018年（平成30年）には設立50周年を迎え、50周年記念誌（図2）の作成も行った。その他に継続している事業としては、文化文政風俗絵巻之行列、新春放談会、妻籠宿火祭り・伝統芸能の夕べ、全国町並みゼミ、狼煙

あげ、アイスクャンドル祭り等の活動も行っている。

2. 活動状況

1) 地域を訪れる客層

2016年（平成28年）の来訪者アンケートによると60歳代の人数が半分以上と多く、旅行期間は1日～2日が7割を占める。旅行人数は1人～2人が多く、交通手段としては電車・車の利用が多い。訪問理由としては快適な環境の中でウォーキング等を楽しむ、歴史的な町並みや街道を体験したかったという理由が挙げられている。来訪者の困ることとして交通アクセスの不便さが挙げられている。

また外国人観光客の観光実態調査もおこなっており、調査によると妻籠宿はヨーロッパ圏の国籍の方の訪問が最も多い。このことはTimeOutのロンドン版やイギリスのBBCの旅番組で取り上げられたことも要因の一つである。その他にもアジア圏ではイスラエルの方に日本好きな方が多く訪問が多い。また他の世界各地域からの訪問者も来ている。

外国の方の訪問のきっかけとしては、SNS発信を見たことが多く、情報収集媒体として記者が現地を実際に訪れ記載された旅行ガイドのロンリープラネットや家族・友人・知人からの情報が多い。イギリス系の旅行代理店「奥ジャパン」が妻籠宿内に支店を設け、ツアーのサポートも行っている。

2) 宿泊・訪問動機

外国の方々は自然や昔の町並みの中で江戸時代の姫や侍が歩いた道を自分たちが体験できるということに魅力を感じている。またニューヨークタイムズの書籍『1,000 Places to See before you die』では日本で7カ所取り上げられており、その中の1つに中山道が取り上げられているのも動機の一つとなっている。日本の方は、どちらかというとも美味しいものを食べて温泉に入るといったのが目的となるので近隣の昼神温泉や下呂温泉といったところへ行ってしまう場合もある。

3) covid-19（学術用語ではこちら）による変化

2020年の秋頃はコロナの波が落ち着いていた時期であった為、日本人観光客は戻りつつあったが、冬の時期の感染拡大により12月、2021年1月はまた訪問客の落



写真6. 妻籠を愛する会施設内部

妻籠に関するパンフレット、防災マップなどを配布している。

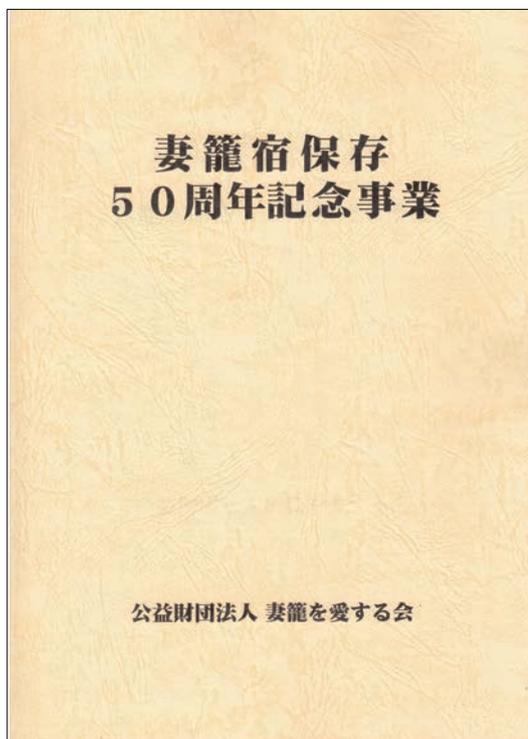


写真7. 妻籠宿保存 50周年記念事業

公益財団法人妻籠を愛する会が発行している資料。

公益財団法人 妻籠を愛する会 機能組織図

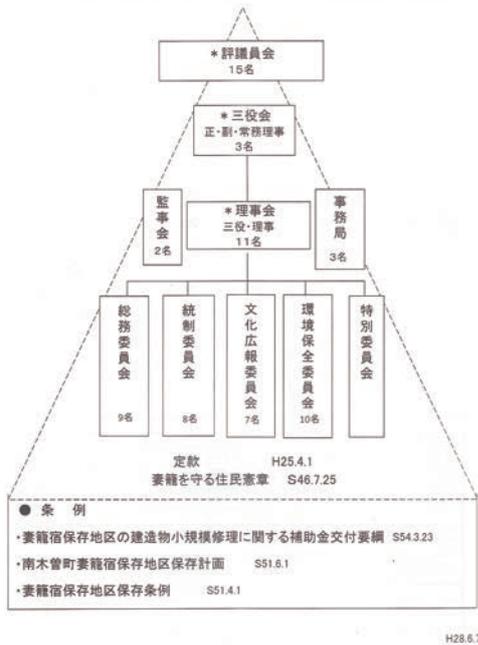


写真 8. 会の組織図（妻籠宿保存 50 周年記念事業 P79 より参照）

ち込みが目立っている。

会の中山道馬籠峠を越えるハイカー調査によると 2019 年（令和元年）度の年間通行者総数は 56,907 人だったが 2021 年（令和 2 年）度は 2021 年 3 月 22 日の時点で通行者総数 11,004 人となっており大幅に訪問客が減っている。外国人の方の通行者は 2015 年（平成 27 年）度に 18,270 人だったが 2019 年（令和元年）度には 37,823 人とインバウンドの影響で 2 倍近くに増えていた。しかし 2021 年（令和 2 年）度は令和 3 年 3 月 22 日の時点では 1,072 人（大半が日本在住者）となっており特に海外からの訪問客の影響が大きくなっている。海外の方のバス訪問は 2020 年（令和元年）度は 932 台であったが、2021 年（令和 2 年）度は利用なしとなっている。

4) 苦勞している点

外部から補助金等をもたらしているわけではないため資金面での苦勞が大きい。収入源としては、財団の中央駐車場の運営と町営の 3 つの駐車場の指定管理者としての運営が主となっている。公募の助成金に応募をする場合もある。これらにより年間で 3,000 万円程度の収入となるが保存の為の改修費等に充てられるため、収支としては若干マイナスとなっている。

また、地域の中でも多様な考え方があるため、意見をすり合わせることに苦勞もあるが、妻籠宿全体としては保存の方向を向いており、この方針が一番の拠り所となっている。

空き家になった建物は 10 年も人が入っていないと修復するのに費用が莫大にかかる。住宅を店舗に転用しようとする消防法や保健所の絡みもあり難しい面もある。若い人も増えてはきているが地元を離れてしまう人もおり、何軒かは空き家となっている。

5) 成功している点

会の活動自体が先例がなく先駆的なものなので活動全般が住民の気概であり、誇りとなっている。妻籠宿での保存は暮らしながらの動態保存であり、博物館ではないと考えている。全国に現在 117 ある重伝建の中でも、ここまできちんと使いながら保存されている例はないと考えている。

6) 重視している活動

建物等の現状変更行為の審査についてきちんと係が決



写真 9. 奥ジャパン事務所

イギリス系の旅行代理店「奥ジャパン」が妻籠内に支店を設け、ツアーのサポート等も行っている。

まっております、長い視点で同様の基準に基づき審査をおこなうことで町並みが継承されていくと考えている。また活動は原則ボランティアでおこなっており、商売をされている方も多いことから活動を平日や夕方からおこなう場合もある。

7) 地域独自のアピールポイント

会は税金の無い村役場のような役割を担っており、妻籠宿の修復と保存事業を担っている。

街道には新しい建物やコンクリート造の建物はほぼなく、江戸末期から大正時代の雰囲気が出せるように景観に配慮している。景観的に電柱は街道沿いから目に入らないように、建物の裏側に配置するよう工夫している。午前10時から午後4時まででは地元の方も含め、原則街道沿いは歩行者天国としており、写真撮影等の際も車が映り込まないように配慮している。消火栓も箱の中に入れて目立たないようにしてあり、消火用ホースは通常65mm～70mmの口径のところを45mmとし、女性でも消火活動が行いやすいようにしている。

3. 立地環境

1) 立地環境について

景観の保存対象は妻籠宿の建物だけではなく、妻籠宿から見える山の稜線まで1,247.4haが対象となっており、宿場・街道・原野・山林が一体に保存されている。周囲は1,000m級の山々に囲まれ、風があまり吹かず降水量が多い地域である。その為、耕作地は少なく江戸時代、山林は御上(幕府・尾張藩・天皇・国)のものであった。

2) 地元や周囲との関わり

地元の方々とは地域や地区行事で関わりがある。行事や活動では会が音頭をとることが多く、毎年11月23日に行われる文化文政風俗絵巻之行列は会が主催して行っている。

同地区内の妻籠観光協会は、元々妻籠を愛する会の中に観光協会がありその後別れたという経緯がある。南木曾観光協会は役場の観光課が主体となり運営され、最近になって一般社団法人となった。妻籠を愛する会は町並み保存がメインであり、観

光協会は観光がメインとなり相互に協力している状況である。その他に商工会との連携等もある。周辺地域・他団体との関わりでは特定非営利活動法人全国町並み保存連盟に所属しており、初めころは妻籠で事務局を行っていた。その他にも日本ナショナル・トラスト協会、信州の歴史的まちなみネットワーク、木曾風景街道推進協議会、木曾狼煙あげ連絡会、木曾地域文化遺産活性化協議会等多くの団体に所属している。国や県、学校等も含め来るものは拒まずネットワークを持っていて互いに情報交換を行っている。

3) 建物保存に関する決まりについて

保存や駐車場の運営は町の条例に基づき行われているが、条例の前提となっているのは1968年(昭和43年)の住民憲章である。保存は過去の事例に沿って行われており、可能な限り歴史に忠実であることが原則である。店舗の看板等も規制の対象である。

街並み等に関する景観及び形質の変更を伴う行為については会が窓口として指導や相談に乗っており、行為を行う場合には現状変更手続きとして町の教育委員会へ提出することになっている。申請にあたっては統制員会で毎月行い教育委員会へ意見を付して進達する形式をとっており、年間80～100件の審査を行っている。申請の対象は新築だけではなく、改修や修理も対象となる。既存の建物の用途としては住居が中心となる。空き家になった建物は、会が仲立ちを行い活用された事例が2件ある。また会で購入した建物も5棟あり集会室や保管庫・着付け教室無料休憩所等として活用している。外国の方々の為にシャワールームとして改修した事例や奥ジャパンの支店になった建物もある。

4) 改善したいと感じている町並み等

一番目に着くのはやはり電柱である。街道から目立たないように建物の裏側に電柱を立てるようにしているが、建物背後が電線で蜘蛛の巣のような状態となっている為、地中化等も含め電力会社と協議をしている。しかし費用の問題もあり実現には至っていない。またガードレールや鉄塔は保



写真 10. 消火栓

消火用ホースは通常 65 mm～70 mmの口径のところを 45 mmとし、女性でも消火活動が行いやすいようにしている。

護色に塗装しているが、道路標識等公共サインは規格のもので白が目につきすぎるため景観保全とのバランスに苦慮している。

5) 情報発信について

会では広告費を使つての観光宣伝は一切おこなっておらず、海外も含めメディアが取り上げてくれることにより宣伝になっている。ただし撮影の際は事前申請、審査許可制となっており、妻籠のイメージを損なうような撮影はできないようになっている。取材記事の添削も会で行っている。映画やドラマ、CM、ドローンによる撮影は原則禁止となっており、旅行や旅番組の取材は歓迎している。近年、海外からの訪問者が非常に多いため、Wi-Fi スポットを多くするという事に配慮している。メディアには正確な情報をきちんと伝えるということを意識しており信濃毎日新聞、中日新聞、市民タイムス等主要なところには事前に情報を伝えている。

(以上、作成者：東京電機大学 荻原雅史，
2021.04)



写真 11. 休憩所

妻籠宿内の古民家を改修し、シャワー付きの休憩所に変更した。